# 県外視察報告

**派遣日**
令和8年8月4日（火）
5日（水）

**派遣先**
千葉県千葉市
ZOZOマリンスタジアム
千葉県長南町
ちょうなん西小（仲間と泊まる学校）
千葉県鋸南町
道の駅 保田（ほだ）小学校

**派遣議員**
薮井　貴史、龍田　安廣
山本　芳徳、熊谷　重美
山本　喜平、入口　誠
原　孝文、長岡　正博
堀江　才二、伊奈　禎胤
西川　富雄

## ●ZOZOマリンスタジアム



(1) **目　的**　日高川町冠協賛試合「ヤッホーナイター」の開催に伴う本町の魅力発信イベント等の取り組み状況の視察

(2) **実施日**　8月4日（火）

(3) **概　要**　本町が千葉ロッテマリーンズ球団と連携して行う冠協賛試合について、実際の現場で本町の魅力情報がどのように発信されているかを確認するとともに、今後の観光振興、特産品のPRやふるさと納税などの情報発信につながる可能性について視察した。




(4) **意　見**

プロ野球の試合という非常に多くの方が集まる場所で「日高川町」という名前を発信できたことは、本町の知名度向上という点で非常に大きな意味があり、普段、本町を訪れることのない関東圏の方々に対し町の名前や特産品、観光などを知っていただく良いきっかけ作りになったとともにプロ野球という非日常的な空間の中で町をPRすることで、単なる広告とは違った形で、来場者の印象に残ったのではないかと思った。「ヤッホーナイター」というネーミングも当町らしいものであり、出店した鮎の一夜干し500食の完売や抽選会での景品配布など、十分に町をPRすることができたのではないかと感じた。

また、冠協賛試合の開催自体を目的とするのではなく、この機会を今後の取り組みにどうつなげていくのかが重要であると感じた。例えば、試合会場で日高川町の特産品や観光施設等をPRするだけではなく、地元イベントの紹介、本町のホームページやSNS、ふるさと納税に誘導する仕組み作りをすることで試合当日に日高川町を知った方が、その後も関心を持っていただける可能性がある。

本町には、柑橘や南高梅をはじめとする農作物や加工品など全国に発信できる魅力的な地域資源がたくさんあり、

こうした地域資源をより効率的に発信することに期待したい。

今回の視察を通して、大きな発信力を持つコンテンツと本町が結びついたことに大きな可能性を感じ、今後も千葉ロッテマリーンズ球団との継続的な連携を図りながら、本町の魅力を全国に発信してもらいたいと思った。




## ●ちょうなん西小学校（仲間と泊まる学校）

**(1) 目　的**　廃校施設の利活用事例の視察

**(2) 実施日**　８月５日（水）

**(3) 概　要**

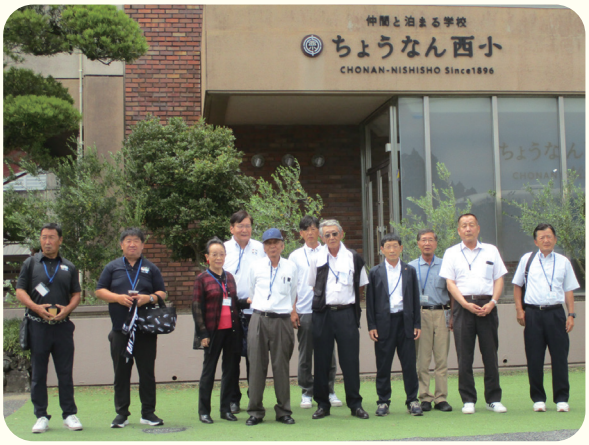
ちょうなん西小学校は、廃校となった小学校施設を活用し、新たな地域拠点施設として活用している成功事例であり、実際の施設を見学するとともに施設運営管理者である株式会社マイナビから廃校に至った経緯、施設の活用方法、運営体制、利用状況、地域との連携などについて説明を受けた。

施設運営管理者が１億円を拠出し、既存の校舎、教室や体育施設などをリノベーションすることにより新たな人の流れや交流を生み出す施設にするとともに、地域住民の団体などとも連携し、それぞれのノウハウや能力を活用することで継続的な施設運営につながっている。

**(4) 意　見**

廃校施設の利活用を進めるためには、施設ごとの立地条件、建物の状態、維持管理費、改修費等を整理し、利活用の可能性を把握する必要がある。その上で行政だけで利活用の方法を決定するのではなく、地域住民や地域団体、民間事業者から幅広くアイデアを募ることが重要であり、民間事業者への貸与や指定管理など施設ごとに最も適した運営管理方法を検討する必要があると思った。

今回の視察を通して、廃校施設の利活用は、単なる公共施設の再利用にとどまらず地域コミュニティの維持、交流人口や関係人口の創出、地域産業の振興など、地域づくりにつながる可能性を持つ取り組みが必要であると改めて認識した。本町において廃校施設の利活用を検討する際には、長南町をはじめとする先進地事例を参考にしながら、慎重に地域特性に適した利活用の方法について検討を進めることに期待したい。






## ●道の駅 保田小学校

(1) **目　的**　廃校施設の利活用事例の視察

(2) **実施日**　8月5日（水）

(3) **概　要**

旧保田小学校は、平成26年に小学校としての役割を終え、その後に指定管理者制度により平成27年12月に「都市交流施設・道の駅保田小学校」として開業した。施設名称には、小学校の名称をそのまま利用し、校舎や教室などの雰囲気を残しながら、直売所、飲食施設、宿泊施設等を整備し、年商約10億円、来場者は年間１００万人を超える施設であり、地元農産物や特産品の販売、地域情報の発信などを行い、単なる休憩施設としての道の駅ではなく、地元観光・産業・交流施設として機能している。

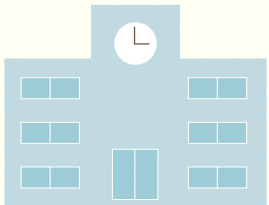


また、大規模な改修をしていながらも廃校となった小学校の「学校らしさ」を大切にしながら、施設の魅力として活用しており、教室などの既存施設を活用することで、他の道の駅とは違い「懐かしさ」や「非日常感」を生み出し、それ自体が観光資源となっている。

(4) **意　見**

今回の視察で最も参考となったのは、「廃校」という課題が「地域資源」に転換されていることであった。施設の維持管理は、老朽化対策など行政にとっては負担となる可能性がある一方、地域住民にとっては思い出が詰まった大切な場所であり、保田小学校では、「学校」という特徴を消すのではなく、前に出すことで他の道の駅との差別化を図っていた。

本町においても、廃校施設を単に維持、保存するという考えだけではなく、地域の活性化につながる施設として活用する可能性について検討する必要がある。農産物をはじめとする地域資源が豊富である本町にとって、農林業、観光、特産品、地域文化などと組み合わせることで、廃校施設を地域の新たな交流拠点施設として整備してもらいたいと思った。








# 町内視察報告

## 総務文教常任委員会

**7月10日（金）町立央和中学校の現況を把握するとともに、町の防災対策及び防災センターの機能を把握するため、両施設を調査した。**

### ●央和中学校

**現況**

**生徒数**
1年生36名、2年生46名
3年生51名、計133名

**クラス数**
1年生（1）、2年生（2）、
3年生（2）、特別支援学級（2）

**施設**
校舎、体育館、技術・美術棟、部室棟、グラウンド、テニスコート、給食調理棟

**部活動**
運動部（5）陸上競技、ソフトテニス、バレーボール、野球、卓球

※シーズンに駅伝部
文化部（1）

**通学方法**
広域な校区であるためスクールバスによる通学体制とし、旧早蘇中校区は自転車通学である。（旧丹生中、旧中津中、旧美山中の3校区はバス通学）
5台のスクールバスを運行している。下校については部活動の時間も考慮し、早い便と遅い便で運行している。

**職員体制**
新たに校務員が配置され、日常的に学校環境が整備されている。

**授業の参観**
生徒数が多くなり、落ち着いた様子で授業を受けているように見受けられ、授業内容も充実しているように感じた。（タブレット端末を使用した授業もあり）

**施設の見学**
・校舎が増改築され、専門科目棟も整備され、良い環境になった。
・吹き抜けや大きな窓を生かした開放的な校舎となっている。
・教室にはエアコンが設置されており、快適な環境の下で学んでいる。
・カウンセリング室が設けられ、生徒へのケアが出来る環境も整っている
・体育館には、新たに空調設備が整備された。

**感想と意見**
・4月に開校して間もないが、学校運営はスムーズにいっているようだ。
・部活動も多人数となり活気があり、統合の効果が出ていると感じた。
・少人数の学校から多人数の学級に馴染みにくい生徒への対応については、注意深く見守る体制をとってほしい。
・今年度の生徒数133名が最多で、3年後には100人台に減少するとの予測であり、10年、20年後のことも考える必要性を感じた。
・バス通学の管理は教職員が担当し、乗車確認等、気の抜けない校務となっているように感じた。



# ●防災センター

**防災対策**

令和８年より気象の警報が大きく変わり、警報レベルに応じて避難行動のタイミングを判断することになる。

本町においては、浸水や洪水、土砂災害のリスクが高い。

**主な防災対策**

・防災行政無線の再整備（Ｒ５～９年度）
・ハザードマップ改訂版（Ｒ８）を各戸に配布
・災害時生活用水協力井戸の登録支援（29箇所）※７月10日現在

**今後の課題**

・新たな気象予報における避難指示等のタイミング判断（レベル３での避難所開設の対応）
・人口減少・高齢化による自主避難や共助機能の低下への対応（自助・共助の支援）

**施設概要**

・町の防災・減災拠点として令和元年５月に竣工
・防災展示スペース、防災学習シアター、炊き出し体験スペース、防災イベントスペース、研修室（和室）、調理室、マンホールトイレ、備蓄倉庫を整備
・災害時には避難所として活用

**施設利用**

・開所以降１千９９０人が利用（コロナ禍の２～３年は受入無し）
・町内外小中高生の防災学習（毎年利用する学校もあり）
・一般のバス観光での見学
・展示スペースでは、水圧体験、消火体験を行い、浸水、火事を体験的に学習可能
・備蓄倉庫には、アルファ化米約２万９千食をはじめ、飲料水、携帯トイレ、パーテーション、毛布などの生活用品を備蓄
・緊急避難対応としては、令和５年６月の台風２号襲来時に高速道路の通行止により御坊南インターから避難してきた外国人観光客や、白浜から帰宅途中の修学旅行の小学生を受入れた実績がある。

**感想と意見**

防災センターは、防災について学べる設備が充実していて、楽しみながら学べる良い環境である。子どもも含め活用してほしい。

水災害の体験設備では、改めて災害の心得を学ぶことができた。

災害時の備蓄品類も充実しており、状況を確認できた。

施設利用報告では、災害対策だけではなく、その他の困窮者にもフレキシブルに対応した実績を確認できた。

今後も防災学習・研修など幅広く利用してもらえるよう、ＰＲも検討してもよいのではないかと感じた。

本町は、水害、土砂災害のリスクを考えた防災対策を進めなければならない。津波の危険性は少ないが、家屋倒壊やインフラ・道路の寸断による孤立集落の対策も必要であり、町は防災や避難についての意識付けをし、各地区に応じた避難訓練の強化をきめ細やかに推進していくべきである。

また、少子高齢化の進む本町での防災、共助機能を高めることも考える必要があると改めて感じた。





# 産建厚生常任委員会

**視察実施日**
令和８年７月13日（月）

**目　的**

(1) **圃場整備の現場視察**
県営中山間総合整備事業佐井地区の圃場整備の現況を把握する。

(2) **クビアカツヤカミキリの被害現場視察**
坂野川地区周辺のクビアカツヤカミキリの被害状況と、その対策を把握する。

**視察場所（視察順）**
・佐井地区県営中山間総合整備事業圃場（佐井）
・クビアカツヤカミキリの被害現場（坂野川周辺）

**調査の経過**
担当課長より圃場整備及びクビアカツヤカミキリ被害樹の現況等について説明を受け、現地を視察した。

**調査の結果・意見**

(1) **佐井地区県営中山間総合整備事業圃場（佐井）**
狭小不整形農地を区画整備し、効率的で持続可能な農業生産基盤を再構築するため、令和４年度より令和10年度にかけて総事業費９億８千５百万円を投じ受益面積15・７ヘクタールを整備する。受益者は51名で、整備後は６～７名で耕作予定。

**（委員の意見）**
圃場整備後は、区画面積が広くなることで大型農機が使用可能となり、また、ドローンをはじめスマート農業の先駆けとなることが期待され、農業者が今後も継続して営農することができると感じた。
整備後の営農者は６～７名の予定であり、高齢化と後継者不足が今後の課題である。
また、日高川に隣接した区域について、洪水による被害が危惧される。

(2) **クビアカツヤカミキリの被害現場（坂野川周辺）**
近年、本町でもクビアカツヤカミキリの被害が発生しており、被害が多く発生している坂野川周辺の道路沿いの桜、旧中津中学校校庭の桜及び梅畑の被害樹の現況を視察。そのうち２箇所で３匹の成虫を確認した。現在行っている対策（被害樹幹への防風ネット被覆や伐採後の切り株へのブルーシート被覆）では不十分であると感じた。

**（委員の意見）**
視察時に３匹もの成虫を目撃したことから、相当数が生息していると考えられる。
今後も被害が拡大すると予想されることから、迅速で効果的な対策が急務である。





## 町村議会研修会

令和８年８月６日、かつらぎ総合文化会館にて和歌山県町村議会全議員研修会が行われ「エネルギー政策の現状と課題」について学びました。原油の輸入動向や価格、原子力需要の見直し、原子力発電の現状、次世代航空燃料など、我が国を取り巻くエネルギー情勢について学びました。

特に海外情勢に左右されるエネルギーの安定確保と、再生可能エネルギーを含めた多様な電源の確保の重要性を再認識しました。

今回の研修で得た知識を日高川町の持続可能な地域づくりや将来の行政施策を考える上で生かしていきたいと思います。




## 広報委員研修会

令和８年８月28日東京渋谷公会堂にて「町村議会広報研修会」が行われました。

議会広報の充実を図ると共に、住民の皆様に議会の活動や情報をわかりやすく伝えるための、記事の構成や写真の活用、読みやすい紙面づくりなどについて学びました。




今回得た知識を今後の広報活動に活かし、より身近で、読んでいただける議会広報を目指します。



## 開かれた議会へ、新たな一歩

これまで本町議会では、ケーブルテレビを通じて、決まった時間に議会の様子をご覧いただいてきました。10月からは、これまでのケーブルテレビによる放送を継続すると共に、新たにインターネットによる録画中継をご覧いただけるようになりました。

インターネット録画中継により、時間や場所にとらわれず、ケーブルテレビに加入されていない方にもパソコンやスマートフォンなどで議会中どのような質問や議論が行われているかを、より多くの皆様にご覧いただけるようになりました。

議会をより身近に感じていただき、町政へ関心を持っていただくきっかけになれば幸いです。

これからも「開かれた議会」を目指し、町民のみなさまにわかりやすい情報発信に努めてまいります。

ぜひインターネット録画放送もご覧ください。

**本会議録画映像配信アプリ**
一般会議・議案質疑の動画がご覧になれます。